

# 2022年度 Report

# 2022年度 法人事業活動報告

**1. 法人基幹収入 30億円スキームの策定**

**2. 意志ある経営指標策定**

**3. 人材育成 [管理職の経営者視点の醸成]**

**4. 働く方々の充実 [処遇改善資金の適正運用]**

**5. 全てのご利用者の幸せを願う**

## 2. 2022年度 法人プロジェクト

①

### ▶ FUKUGAKUバリューアップ計画 第Ⅱ期 [地域生活支援拠点整備]

- ☑ 相談支援センターてくてく 長田地域から市街地へ事業所移転
- ☑ 新築：JUMP [通所生活介護事業所]
- ☑ 新築：重度対応型GH 2棟

達成

- ・相談支援センター 2022.4.1. 駅前に移転
- ・JUMP 2023.3. 通所生活介護30名 申請済
- ・**重度対応型GH 3棟 開設へ変更し進捗中**

②

### ▶ 業務効率化の向上

- ☑ 会計ソフト・システムの変更 [TKC導入]
- ☑ DX化を図る [戦略的経営への変革]

達成

- ・会計ソフトTKC 運用済
- ・DX化進捗 2023.4.支援記録ケアカルテ導入

③

### ▶ 障害者支援施設 [入所]

- ☑ 重度加算Ⅱ 算定 [強度行動障害者支援の向上・充実]
- ☑ 強度行動障害者支援者養成研修 [初任者] ・ ・ 全職員受講

達成

- ・重度加算Ⅱ 算定・対応済  
[むとべ翠光園・あまだ翠光園・おさだの翠光園]  
2023.4より みわ翠光園 算定予定
- ・**養成研修現在も計画的受講を実施**

④

### ▶ CK [法人セントラルキッチン]

- ☑ 本格稼働 4月：橘・むとべ 6月：みわ  
8月：あまだ・おさだの 10月：ほほえみ

達成

- ・4月：橘・むとべ翠光園  
7月：みわ翠光園 CKから配食開始
- ・**バリューアップ計画第Ⅱ期プラン変更、入札延期に伴い、他事業所への配食計画も変更**

### 3. バリューアップ計画 スケジュール

#### 第Ⅰ期整備2020.4 — 2022.7

2020.BCP  
策定

2021.コロナ  
対応BCP策定

2021.労働環境改善計画  
8.1勤怠管理システム

2022.2.14 竣工  
セントラルキッチン

2022.7.7 竣工  
みわ翠光園  
[高齢障害者特化型施設]

#### 第Ⅱ期整備2022.10 — 2023.12 [GH計画変更有]

2022.10.—2023.1  
旧みわ翠光園 解体工事

計画変更

2022.1 — 2023.10  
<重度対応型GH 2棟 新築工事>

2023.1 — 2023.10  
旧みわ翠光園 (1寮) 改修工事  
<重度対応型GH・通所生活介護事業所  
地域生活支援拠点事業所>

2023.4 — 2023.11  
<重度対応型GH 2棟 新築工事>

2023.7 — 2023.12  
<重度対応型GH 1棟・通所生活介護事業所 定員：60名>  
旧みわ翠光園 あけび棟 改修工事  
地域生活支援拠点整備事業

FUKUGAKU  
バリューアップ計画  
完遂

## 4. FUKUGAKUバリューアッププラン入札進入札情報

### ▶旧みわ翠光園 ひのき・あけび寮等の解体工事 指名競争入札

<2022/10/21 工事着工>

日時	会場	実施内容	立会	参加業者数	落札業者	落札額
2022年 9月30日 (金)	10:00~ 福知山市三和支所 2F会議室	指名競争入札	・福知山市契約監理課長 ・障害者福祉課長 ・法人理事者	6社	ナカダ工業(株)	¥34,980,000

### ▶FUKUGAKUバリューアッププラン第二期事業(重度対応型GHA・B棟)

指名競争入札

<2023/4/1 工事着工予定>

日時	会場	実施内容	立会	参加業者数	落札業者	落札額
2023年 3月31日 (金)	10:00~ 福知山市三和町 農業振興センター 2F会議室	指名競争入札	・福知山市契約監理課長 ・障害者福祉課長 ・法人理事者	9社	(株) 柏原工務店	¥282,700,000

# 5. バリューアップ計画実績報告 7/7 みわ翠光園 竣工 / 第二整備事業開始



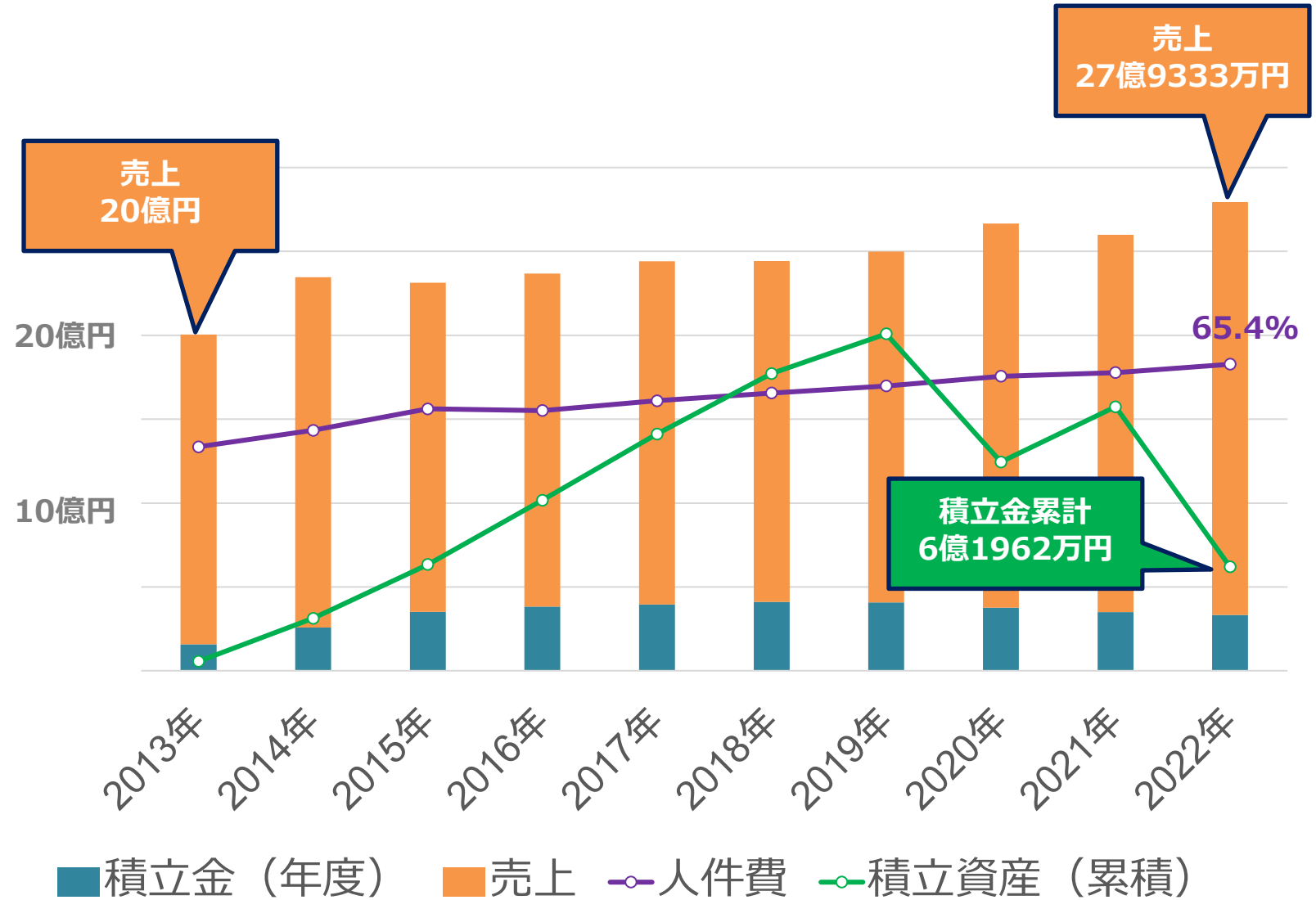
## 6. 収入と人件費[10年推移]

トップライン

利益

人件費率

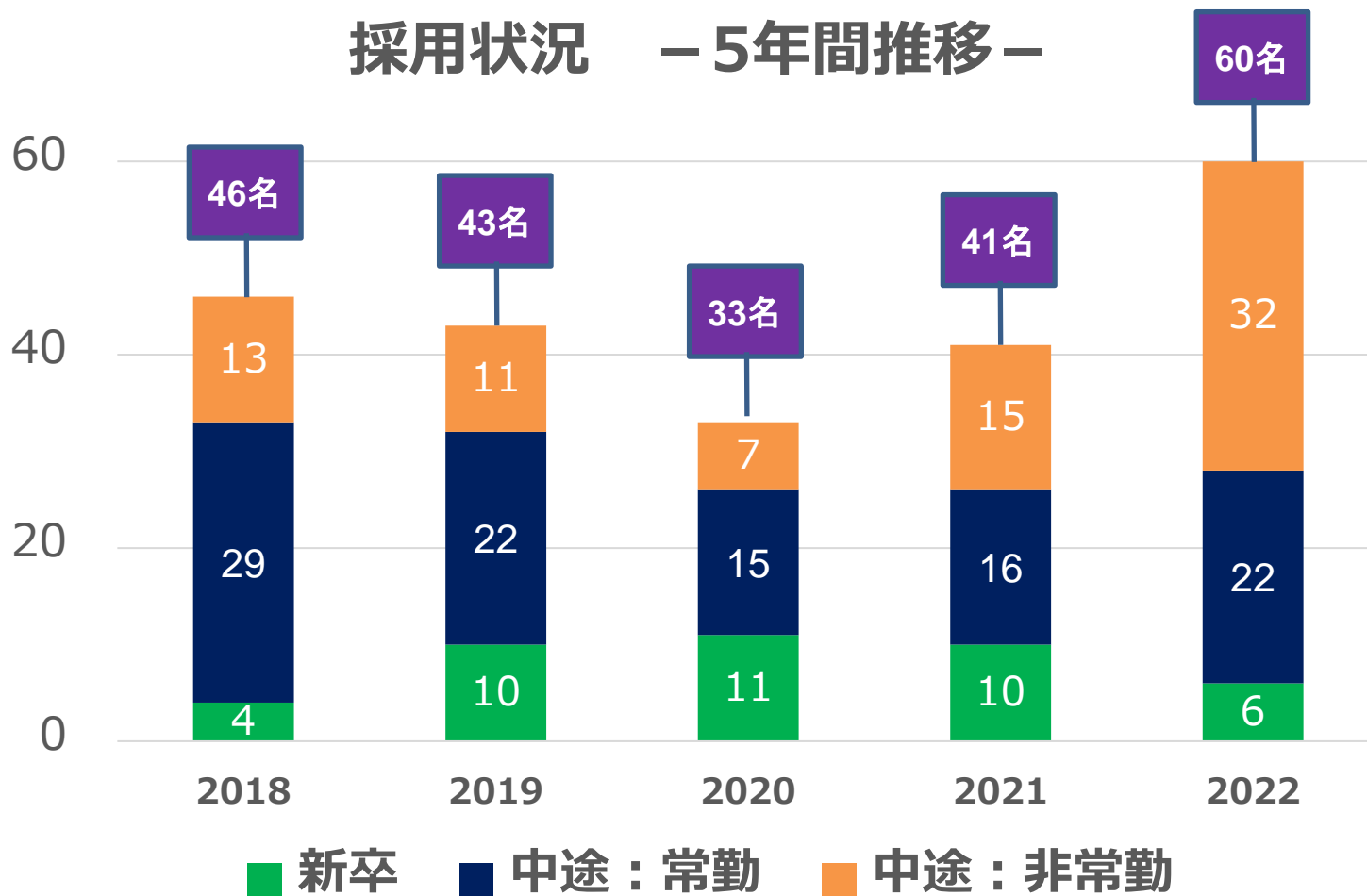
10年間 平均66.2%





## 7. 採用狀況報告

### 採用狀況 - 5年間推移 -



### <2023.内定者報告>

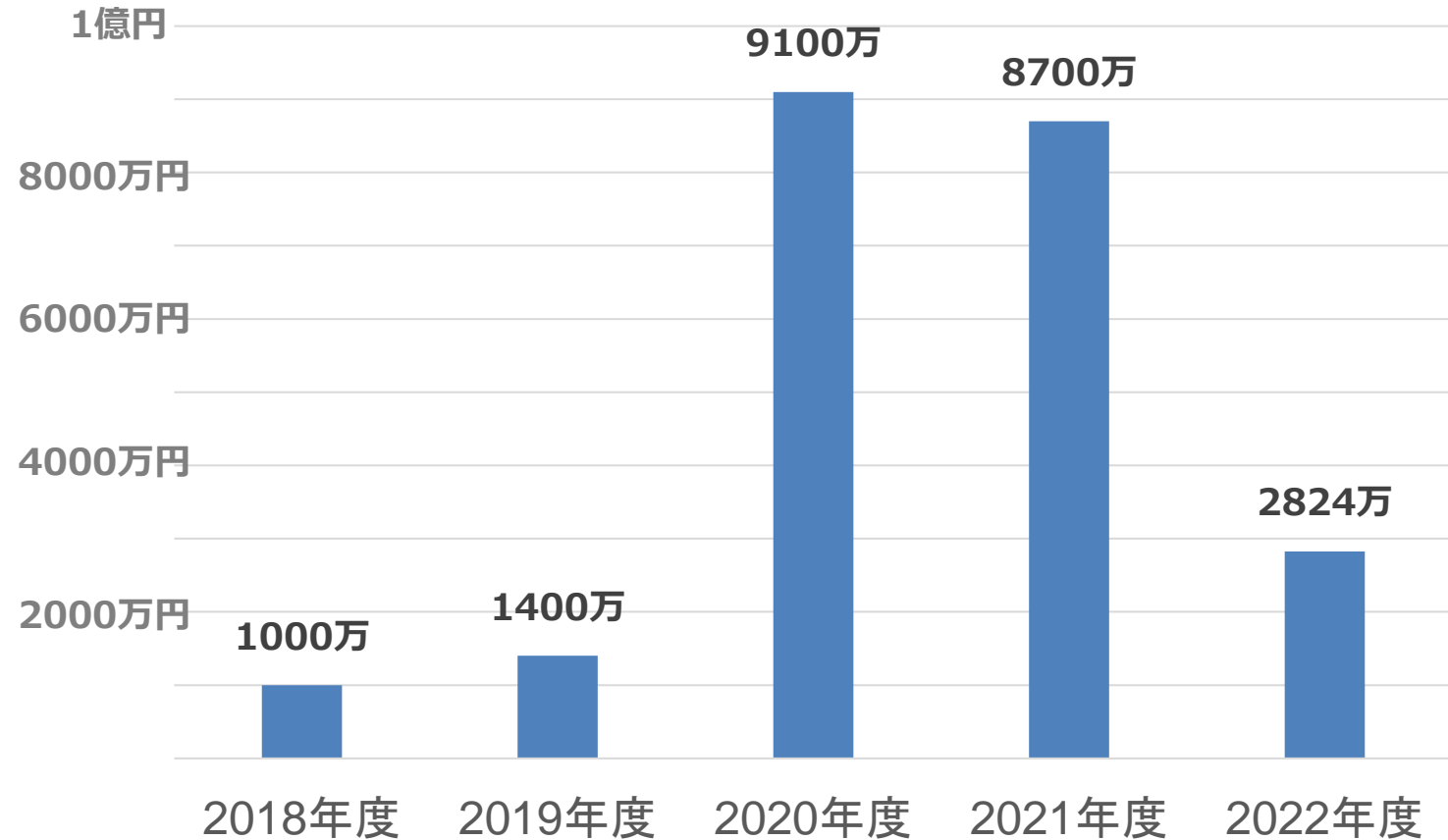
6名 [2023新卒]

職種	学校名	備考 (希望分野/現住所)	
支援員	佛教大学	児童・地域分野	福知山
支援員	大谷大学	障害分野	滋賀県
支援員	大谷大学	障害分野	滋賀県
支援員	豊岡短期大学	児童分野	兵庫県
支援員	舞鶴YMCA	高齢者	福知山
管理栄養士	京都光華女子大学	—	京都市

## 8. 知的財産と人事育成の考え方

ニチワ電気株式会社	<ul style="list-style-type: none"><li>・ HACCP</li><li>・ ニュークックチル</li></ul>
小牧社会保険労務士事務所	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 労務管理</li></ul>
日本総研	<ul style="list-style-type: none"><li>・ BCP</li><li>・ DCP</li></ul>
日本経営	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 財務管理</li><li>・ TKC</li></ul>

<業務委託費の5年推移>



## 9. FUKUGAKUバリューアップ計画 資金計画

①	<b>本体施設整備費</b>	<b>建設工事費・設計管理費の総額</b>	<b>31億4290万円</b>
	セントラルキッチン	器具含む	6億8740万円
	みわ翠光園整備		16億2678万円
	地域生活拠点整備	重度対応型GH A/B棟	2億8270万円
		重度対応型GH C棟/通所生活介護事業所	4億6402万円
	内設計管理料	設計・管理に係る諸経費 5.6%	
	外溝費	外溝工事に係る費用	8200万円
②	<b>設備整備費 他</b>	<b>設備・備品等に係る経費</b>	<b>3億8836万円</b>
	<b>建築工事費経費総計</b>	<b>(①+②)</b>	<b>35億3126万円</b>

建築工事経費総額

35億3126万円

国庫補助金

法人自己資金（建築積立）・銀行借入10億円

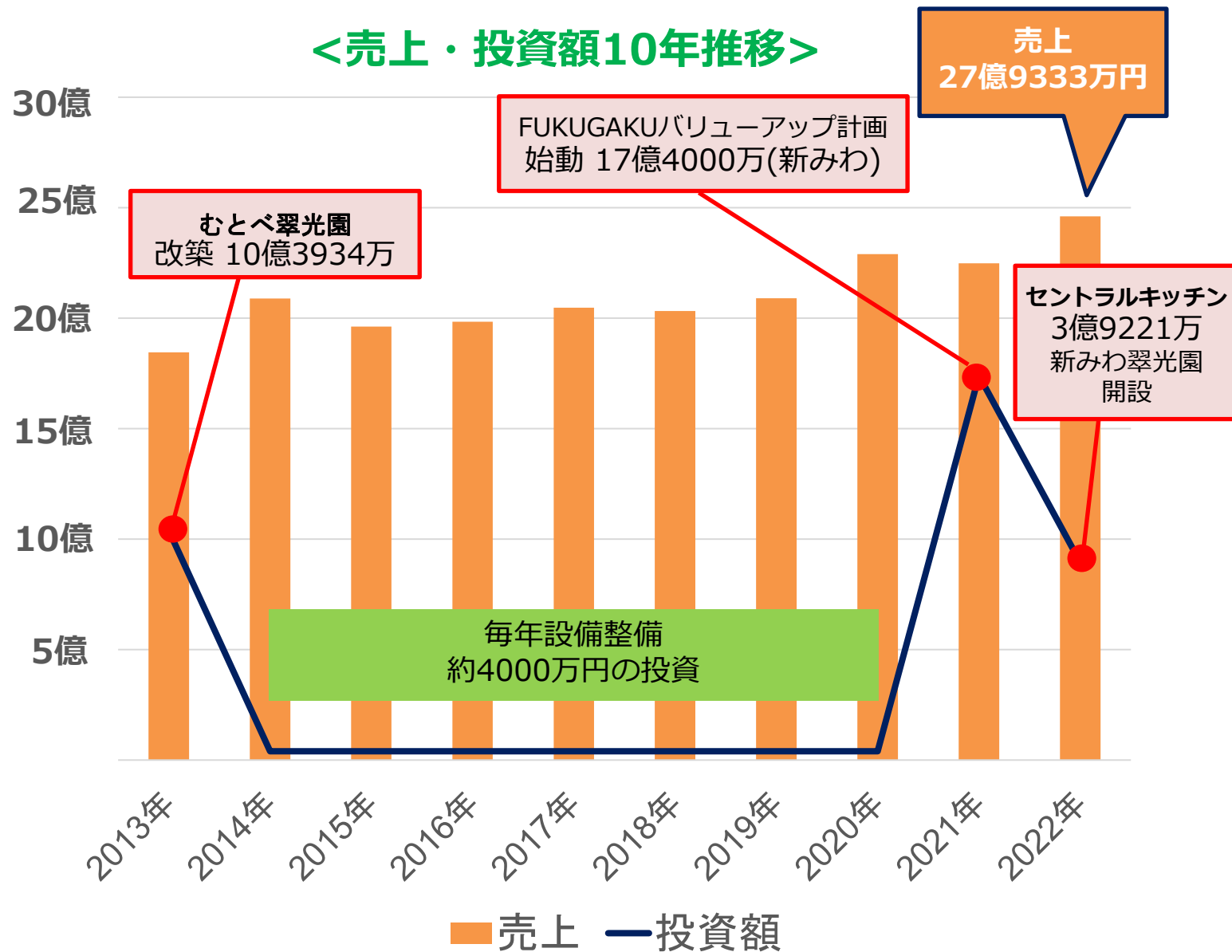
6920万円

34億6206万円

# 10. 設備投資から進める“働き方改革”とサービス品質向上

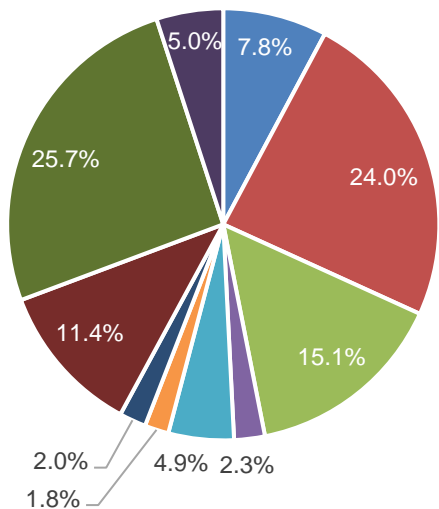


<売上・投資額10年推移>



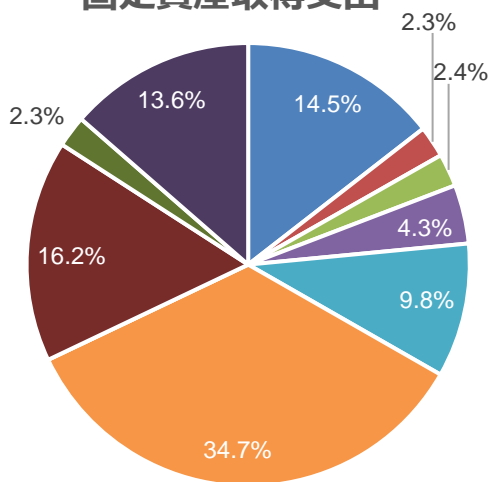
# 11. 安全・施設改修実績

## 修繕費支出



- むとべ翠光園拠点
- あまだ翠光園拠点
- おさだの翠光園拠点
- みわ翠光園拠点
- 相談支援事業所てくてく拠点
- 長田地域拠点
- 三和地域拠点
- ほほえみの里拠点
- 橘拠点
- 本部拠点

## 固定資産取得支出



- むとべ翠光園拠点
- あまだ翠光園拠点
- おさだの翠光園拠点
- みわ翠光園拠点
- 相談支援事業所てくてく拠点
- 長田地域拠点
- ほほえみの里拠点
- 橘拠点
- 本部拠点

勘定科目	むとべ翠光園拠点	あまだ翠光園拠点	おさだの翠光園拠点	みわ翠光園拠点	相談支援事業所てくてく拠点
修繕費支出	4,478,025	13,773,099	8,642,841	1,314,740	2,784,800
主な内容	高圧ケーブル撤去 エコキュート 乾燥機	ゴミ置き場 漏水調査 高圧ケーブル	ランドリー改修 Wifiルーター トイレバルブ交換	駐車場整備 スチール棚 玄関リモコン	事務所改修 照明器具

勘定科目	長田地域拠点	三和地域拠点	ほほえみの里拠点	橘拠点	法人本部拠点	社会福祉事業
修繕費支出	1,059,308	1,155,323	6,543,717	14,759,228	2,880,087	57,391,967
主な内容	ウォシュレット エコキュート スロープ	外装塗装 脱衣室床 室内カメラ	ボイラー室消音 自家発電機 エレベーター	空調設備 給水ポンプ トイレ	道路アスファルト 浄水器 フェンス	

勘定科目	むとべ翠光園拠点	あまだ翠光園拠点	おさだの翠光園拠点	みわ翠光園拠点	相談支援事業所てくてく拠点
固定資産取得支出	5,952,541	930,300	978,516	1,771,720	4,030,972
主な内容	エアコン 児エリア改修 カメラデコーダ	庇取付 給湯器 パソコン	汚物処理器 物品収納物置	土地設計管理 軽トラック パソコン	ジアイーノ サーモカメラ

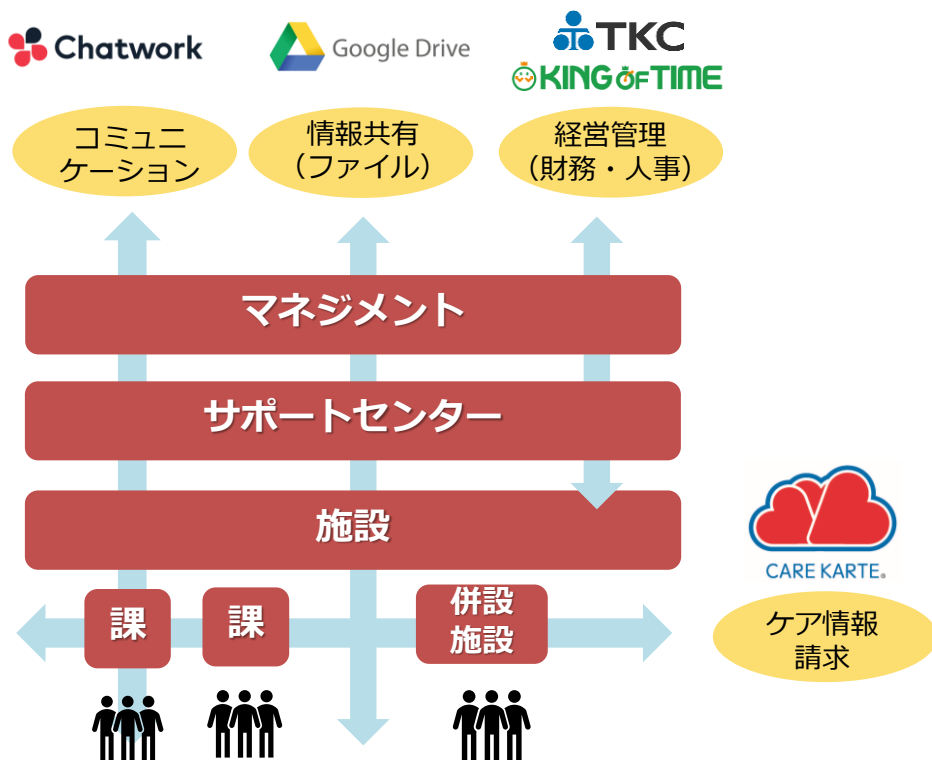
  

勘定科目	長田地域拠点	三和地域拠点	ほほえみの里拠点	橘拠点	法人本部拠点	社会福祉事業
固定資産取得支出	14,279,595	—	6,648,930	938,410	5,609,070	2,767,572,741
主な内容	農場移転 軽トラック パソコン		リフト車 軽自動車	AED パソコン エアコン	みわ備品 テーブル (土地建物t除く)	

## 12. DX推進 -実践報告-

### 経営状況・判断を早くするためのICT

- 法人サポートセンターと各施設、事業所内の情報共有を図るために、各種ICTツールを導入・展開する
- データPF（プラットフォーム）計画を進めていく  
※R5年度計画



### TKC 運用開始

- ①Fintechを活用した伝票入力により、仕分入力にかかる時間を削減。
- ②外部データ取込機能を活用した、仕分取込の活用により転記作業を大幅に削減。
- ③TKCとSMBCの業者支払いデータについて共通化を行い、データを変換する仕組みを整えることで、業者支払いにかかる転記作業を削減。

▶TKCの機能により、データの集約作業が効率化。決算業務における手間が大きく削減された。社内サーバー設置環境からクラウドサービスへ移行することで、BCP強化につながった。

今後も業務環境の整備、DX化の推進を目指す。

### CARE KARTE導入準備

- ①Ipad、ipad touchを合計43台、障害者施設に導入。タブレット端末による記録入力が可能になる環境整備。
  - ②紙やエクセルの帳票を軽減し、現場の利用記録から請求データを作成できるように整備。
  - ③クラウドサービスへ移行することで、運用管理の負担が低減。ネットワーク構成の簡素化。
- ▶ケアカルテのシステムで対応できなかったデータについて管理方法を整備していく。

## 13. 数字で見る福知山学園の状況

▶2022年 職員総数 428名  
 ▶2022年 離職者数 35名  
 離職率 8.2%

### ●年間1人職員平均残業時間

2020年度	8.0 時間
2021年度	9.4 時間
2022年度	8.5 時間

### ●離職率<正職員>

2020年度	3.2%
2021年度	4.5%
2022年度	6.3%

### ●職員数 / 産休取得者数

2020年度	405名	8名
2021年度	431名	5名
2022年度	428名	5名

### ●有休消化率<法人全体>

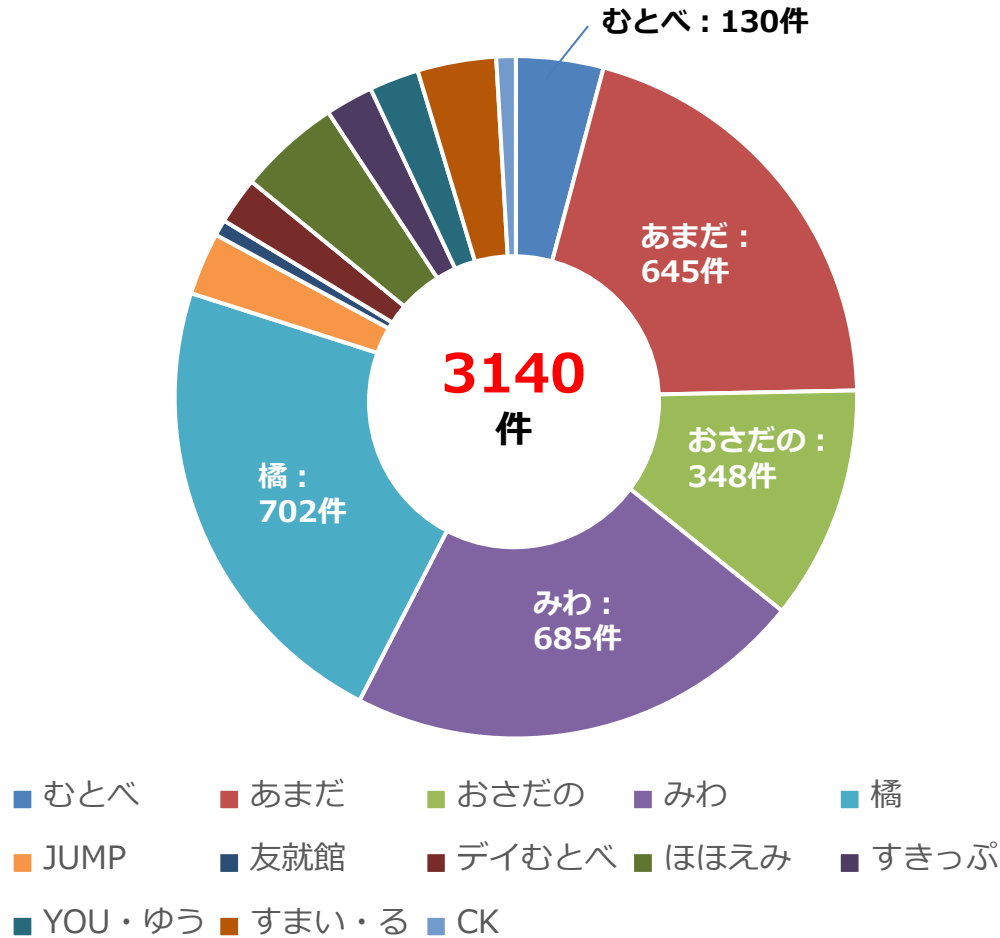
2020年度	72.0%
2021年度	85.9%
2022年度	89.2%

### ●令和4年度 1人職員平均夜勤回数

障害者入所施設 A [定員40名]	3.9回
障害者入所施設 B [定員80名]	3.4回
障害者入所施設 C [定員80名]	3.5回
障害者入所施設 D [定員70名]	3.8回
重度対応型グループホーム [定員14名]	4.4回
介護老人福祉施設 [定員39名]	3.5回

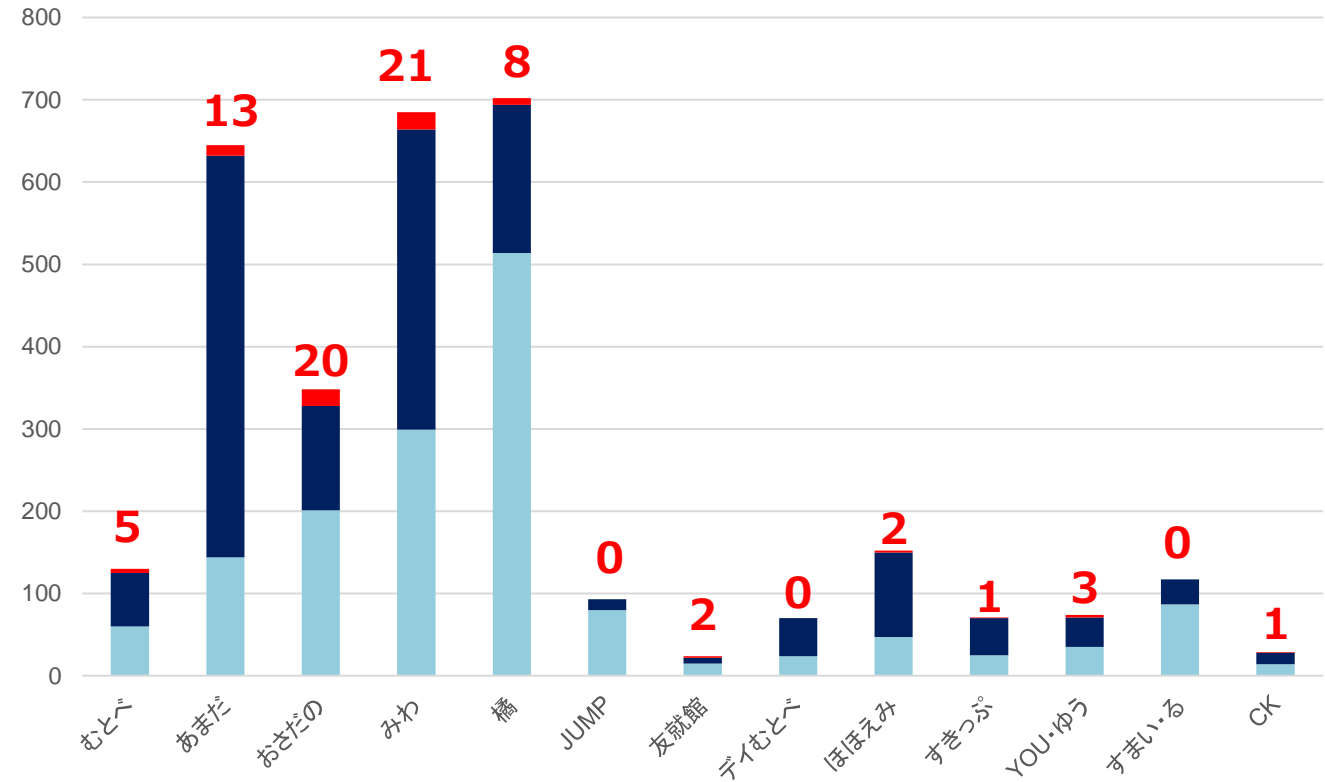
# 14. 事故・ヒヤリハット件数

## ヒヤリハット法人総数



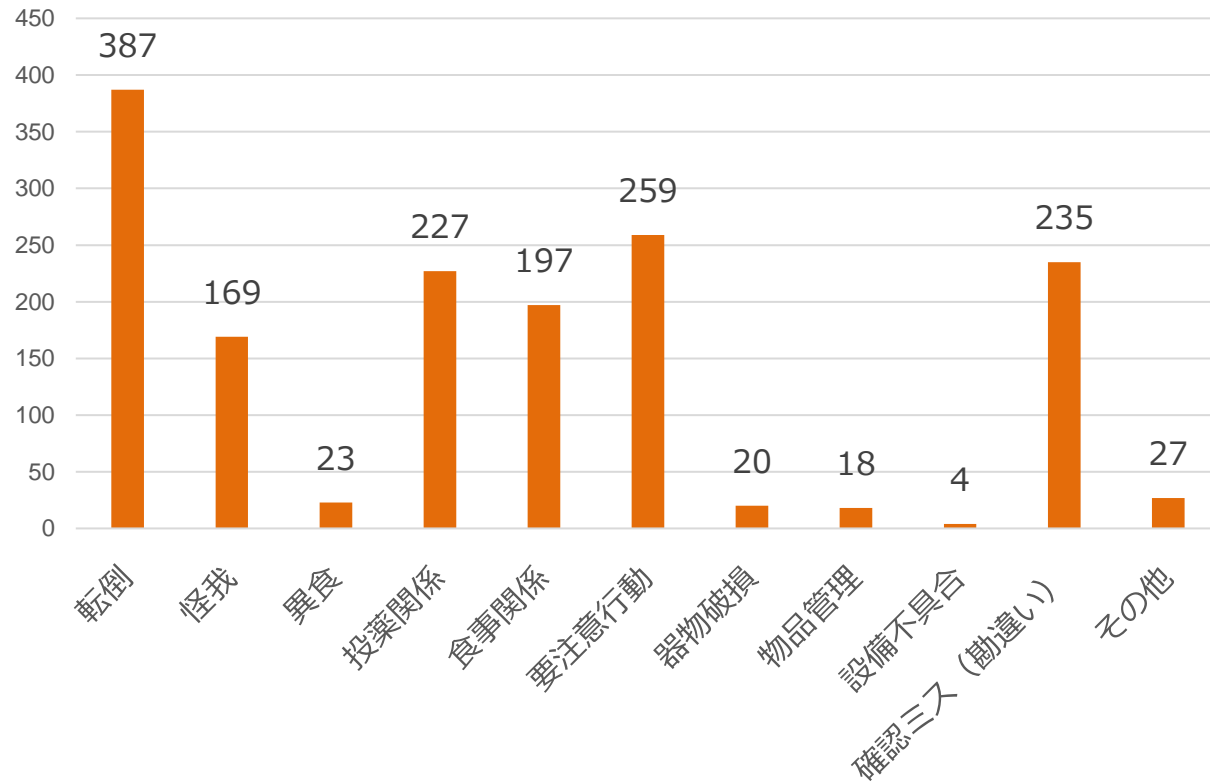
## ヒヤリハット内訳

<ヒヤリハット・インシデント・事故（要受診）>

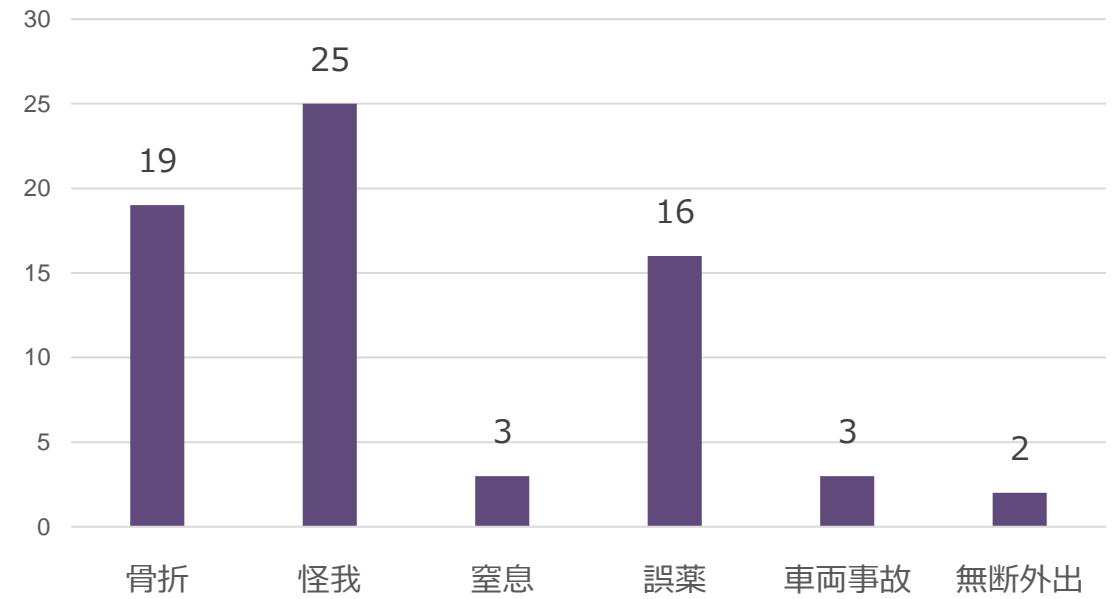




## インシデント種別<1566件>



## 重要事故種別<68件>



# 15. 虐待認定に関する報告

## <虐待事例>

### 1. 通告状況

事業所(あまだ翠光園)虐待防止責任者から、中丹西保健所ならびに福知山市・京丹波町へ通報

### 2. 虐待種別 「身体的虐待」

### 3. 発生日時 令和4年7月9日 18時40分頃

### 4. 発生場所 あまだ翠光園・1階ご利用者居室

### 5. 当該ご利用者 35歳(男性)

### 6. 当該職員 生活支援員・20歳代男性

### 7. 内容および状況

当該ご利用者は強度行動障害認定ご利用者で他の方の衣類への執着が強い。当日も、当該職員の定期検温ラウンドに付いて歩いていた際、他ご利用者の衣服を居室から強引に持ち出そうとしたため、当該職員が制止・注意しようとして検温用バインダーで当該利用者の頭頂部を叩き、出血をとまなう怪我を負わした。

### 8. 調査実施状況

令和4年7月19日、事実確認のため京丹波町による現地調査

令和4年8月 9日、中丹西保健所福祉課による実地指導

### 9. 京丹波町調査結果(令和4年7月26日)

「身体的虐待」として認定

令和4年7月25日法人懲罰委員会開催。理事長・総園長をはじめ、当該施設長・施設長・副施設長、当該職員等に対し、就業規則第59条に基づく減給処分等とした。

上記の事実を真摯に受け止め、ご利用者様の尊厳と生活の安全を守るべく、法人一体となり継続的な虐待防止対策を講じてまいります。

## <虐待防止対策の実施>

日付	あまだ翠光園 虐待防止対策内容
7月15日	あまだ翠光園全職員への聞き取り調査開始
7月21日	あまだ翠光園全職員への聞き取り調査終了
7月22日	あまだ翠光園職員会議にて状況報告・振り返り実施
7月23日	現状の課題整理・対策案作成
8月1日	施設内管理職会議 / 虐待防止チーム立上げ
8月5日	施設内リーダー会議 / 虐待防止対策進捗確認
8月10日	第1回目 虐待防止研修会(午前・午後) <人事部対応>
8月24日	第2回目 虐待防止研修会(午前・午後) <人事部対応>
9月9日	第3回目 虐待防止研修会(午前・午後) <人事部対応>
9月21日	第4回目 虐待防止研修会(午前・午後) <人事部対応>
10月12日	法人全職員対象「ヒヤリング調査」開始
10月21日	あまだ翠光園「自閉スペクトラム症研修会」開催

▶法人全職員を対象したヒヤリングについては、毎年度実施として計画

# 2022年度

## 各部門アクションプラン報告書

FUKUGAKU  HEART

# 1. サポートセンター 人事部 Report

## Concept 「新しい法人価値の発信」

	財務の視点		顧客の視点		業務プロセスの視点	学習と成長の視点
重要指標	職員数増加		新規法人ファンの獲得		職員満足度の向上	新しい法人内研修の確立
目標値	新卒採用 15名以上  中途・キャリア採用 30名以上	年間退職者 25名以下	新ホームページ完成	公式LINEからの 定期的な情報発信 (月1回以上)	総合満足度結果(評価)の 1%以上ポイントUP	動画研修・対面研修・WEB研修・外部研修 により正職員は2回以上の研修参加を実施
実績	【未達成】 ・23新卒入職者 6名  【達成】 ・中途キャリア入職者 55名 (中途キャリア内訳) 正規職員 17名 限定正職員 4名 パート職員 34名	【未達成】 退職者 36名	【未達成】 令和5年3月末時点未完成  ※令和5年4月時点作成中 (5月完成予定)	【達成】 登録者 66名  現在は、内定者・求職者を 中心連絡ツールとして運 用中  令和5年度からはTwitterを 運用予定	【未達成】 令和4年11月 組織活性化プログラム 職員アンケート実施  R4 総合満足度 3.52 ↓ R5 総合満足度 3.59	【達成】 ●WEB動画研修 正規職員対象実施 ●新任職員職員研修(10名) 4月4日・5日・6日・10月26日・2月8日 5日間  ●課題解決能力向上研修(27名) 6/29 1~2等級対象 ●育児休業に関する研修(41名) 6/16~30 動画視聴 管理職 ●マネジメント力向上研修(18名) 7/20 4~5等級対象 ●精神科医との連携研修(25名) 9/30 動画研修 ●中途キャリア新任職員研修(10名) 12/6 中途キャリア新規入職者対象

### Concept 「職員を支えるための安定経営」

	財務の視点	顧客の視点	業務プロセスの視点	学習と成長の視点
重要指標	FUKUGAKUバリューアップ計画 投資資金の確保	会計処理の効率化と 経営管理資料の見直し	FUKUGAKUバリューアップ計画の完遂	事務業務の効率化と標準化を行う
目標	▶法人積立予算額の達成 ▶稼働率の目標達成と経費削減	▶会計シフト変更による業務効率化を図る。 ▶わかりやすい経営管理資料の提示。	▶FUKUGAKUバリューアップ計画 に伴う安全なキャッシュフローの確保	▶会計業務の本部集約化と 業務見直しによる生産性向上を図る
目標値	▶法人積立金 <b>3億6千万円</b>	▶会計業務の月次・決算 処理工数 <b>20%削減</b> ▶財務会議資料の見直し	▶法人キャッシュフロー計画書 ▶セントラルキッチンキャッシュフロー計算書 作成と進捗確認。安全な資金の確保	▶会計業務の月次・決算 処理工数 <b>30%削減</b> ▶業務見直しによる生産性向上。
実績	1.会計ソフトの変更により月次の法人全体の 収支状況を確認しながら2週間毎の稼働率 の確認と主な投資の確認を実施している。 2.各施設で予算総額から必要なものを必要 な時に申請・承認を経て購入。 物価高騰と電力料単価のアップが収支に影 響している。 収入 予算比 <b>52.8%</b> 事業費 予算比 <b>55.7%</b> 事務費 予算比 <b>54.3%</b>	1.会計処理について、日本経営のコンサルティング を受けながら自動の伝票作成ができるように変更 を行い銀行データを会計ソフトに呼び込み伝票作 成を行い業務効率化できた。 <b>処理工数 20%削減</b> 2.経営管理資料について、新会計ソフトから効率的 に作成し、理解しやすい資料に変更した。同じ帳 票で各サービス区分の収支を確認しながら会議を 行っている。	1.担当理事と工事進捗の情報共有。 2.キャッシュフロー表を随時更新し、第一期 FUKUGAKUバリューアッププランの支払いも予定 通り支払いを完了した。 第二期三期FUKUGAKUバリューアッププラン支 払いについてもキャッシュフロー表を作成し進め ている。	1.業務効率化は日本経営のコンサルを受けなが ら進めている。令和5年度は請求ソフトの変更を 行い、令和6年度から会計業務を集約していく。 2.Fintec機能の導入。 3.会計業務集約化は各事務員、人事とも情報共 有しながら進めている。

# 3. セントラルキッチン Report

## Concept 「CK・SK一体的食事提供の実現」

	財務の視点	顧客の視点	顧客の視点	業務プロセスの視点	学習と成長の視点	
重要指標	財務基盤に基づいた適正な運営	安全・安心な食事な食事提供	栄養マネジメントの向上	業務省力化	管理体制の強化	工程管理と実践
目標値	①給食会計一元化 ②害虫駆除・衛生 (洗浄・清掃・備品)会計の一元化	①モニタリングによる 室内温度・湿度管理 ②加熱調理・適温提供の実現	①給食ソフトに全ご利用 者情報登録入力	①CK時差勤務形態の廃止 ②SK早出勤務時間の軽減 ③有給消化率	①CKによる食材・ 発注業務の統一化 ②CK集約によるSKへの害 虫駆除・衛生清掃管理	①基本SOP (標準作業手順書)運用 ②給食ソフトとモニタリングシス テムによる製造工程管理の 運用
実績値	①発注業者の集約化によるコスト削減(食材・備品・衛生関連用品) →全ての事業所の給食費をCKで集約、支払い業務の一元化完了 ②害虫駆除、衛生管理、厨房備品等、システム及び会計の一元化 →6事業所の厨房清掃管理 外回りグリストラップ清掃管理をCKで一元化完了 →各SK器具什器等の発注確認及び支払い業務の一元化完了	①各種衛生点検・記録の徹底 →橘・むとべ・みわ等SK化実施により、モニタリングシステムの設置済 50%おさだの・あまだ・ほほえみ未設置 ②各種温度データの管理及び配送温度管理記録の徹底 →橘・むとべ・みわ等SK化実施により、モニタリングシステムの設置、帳票システム記入 システム未設置 2023年度中の設置 進捗率 50%	①各SK配置給食ソフトの適正運用 →CKでの献立作成と、5事業所でのご利用者情報登録完了栄養ケア計画 橘・むとべ・みわ初回作成完了 ②CK・SKの連動と効率化 →管理栄養課での会議と共に、SK化実施済施設においては、訪問指導含めて進行中	①機器運用の製造時間配分確認、短縮化 →現状1日650食製造。時間工程管理が進んでおり、現在の3事業所においては、製造工程管理・時間工程管理・衛生管理において、時間内に実施 ②SK早出勤務改 →SK化完了施設、橘・みわ7:00早出勤務実施 むとべ 6:30早出勤務実施 ③有給取得 →CK 89% SK 6事業所 78%	①CK・SKリモート朝礼の実施 →管理栄養課で未実施 ②CK・SK害虫駆除・清掃業務の確実な履行 →CKから各事業所スケジュール管理の実施及び、全体的とりまとめをCKで管理 100% ①調味料、水分量等調整について手順書に基づいて製造部門の共通理解を図る →新規メニューごとにSOPを作成。手順書に基づいて、製造工程の運用中。各事業所からの検食表の意見から、随時SOPの改善継続 ②CK・SK機器の確実な運用を図る →CKでの温度管理による運用の実施 100% →SKでは橘・むとべ・みわのみ実施 50%	

# 4. むとべ翠光園 Report

## Concept 「新生 むとべ翠光園」

	財務の視点		顧客の視点	業務プロセスの視点	学習と成長の視点
重要指標	安定的な収入の確保	ご利用者・ご家族様のニーズを理解し、短期入所の稼働UP	ご利用者の満足度UP	職員の仕事に対する満足度の向上	利用する、ご利用者・ご家族様からの安心
目標値	▶ 重度加算Ⅱの実施人数 ・10人/365日 =3,650人/年間	▶ 年間稼働率：99%	▶ 感謝の声：5回/月	みんなリーダー会 5回/月	▶ 身体拘束研修会： 1回 ▶ 虐待防止に向けた研修会：1回 ▶ サビ管更新研修： 2名 ▶ 介護福祉士養成研修： 1名
実績	▶ 重度加算Ⅱの実績人数 ：3,650人/年	▶ 短期入所：88.4%	▶ 感謝の声 (毎月の自治会の中で、 行事の振り返りを実施)  ：5人以上の方より、再度行事の希望あり	▶ みんなリーダー会 実施状況：0回  ▶ 個人面談 実施状況：1回  ▶ 課題点の検討 実施状況：3回/月	▶ 身体拘束研修会 : 0回 ▶ 虐待防止に向けた研修会 : 1回 ▶ サビ管更新研修 : 0人 ▶ 介護福祉士養成研修 : 1名 (介護福祉士合格者：1名)

## Concept 「多面的考察からの変容」

	財務の視点		顧客の視点	業務プロセスの視点	学習と成長の視点	
重要指標	安定した施設経営	光熱水費の削減	ご利用者の生活環境 と安全性の向上	職員の業務効率化の追求	職員の支援者としての成長	施設内研修会の充実
目標値	①短期入所稼働 年間:100%  ②京都式モデル 事業の実施 2ケース/年  ③集団感染 年間発生 ゼロ	①光熱水費 すべてにおいて 対前年比-5%	①誤薬事故 年間発生:ゼロ  ②事故報告書 前年比:-20%  ③ヒヤリハット報告提出 前年比(+)	①超過勤務時間 前年比:-10%  ②有休消化率 年間:75%以上	①丁寧な言葉遣い ・対応 100%  ②アンケートシート 回答内容の向上  ③外部研修参加 前年比(+)	①年間開催回数 3回以上  ②年度実践報告 1ケース作成
実績	①短期入所 年間:103.5%  ②京都式モデル事業 5ケース/年 コンサルテーション&受入  ③集団感染 年間:ゼロ達成	①光熱水費 ・電気使用量 前年比: +13%  ・水道使用量 前年比: +21%	①誤薬事故 年間: 3件発生  ②事故報告書 前年比: +30% (前年10件→13件)  ③ヒヤリハット報告提出 前年比: +61件	①超過勤務時間 前年比: -64% (224h→145h)  ②有休消化率 年間: 97%	①丁寧な言葉遣い 90% ・毎日朝礼での標語唱和 ・AIKキャンペーンの実施 ・日々意識した業務  ②アンケートシート ・AIKキャンペーンの継続 実施含め施設・職員間 の雰囲気が良くなった  ③外部研修参加 (前年6人→) 本年度上半期17人	①開催回数 ・虐待防止研修 5回 開催 ・自閉症理解のための 研修 2回 開催  ②実践報告 あまだPR室から 実践報告提出



# 6. おさだの翠光園 Report

## Concept 「笑顔が広がる暮らしの質の向上」

	財務の視点		顧客の視点		業務プロセスの視点	学習と成長の視点
重要指標	財務基盤に 基づいた適正な運営	厳正なる 予算執行	安心できる 生活環境の提供	施設の魅力発信	働きやすい職場環境	専門知識と実践
目標値	①サービス全体の 稼働率99%以上  ②水光熱費 昨年比マイナス	執行率95%以上	①事故件数 昨年対比マイナス  ②インシデント報告 昨年対比マイナス10%  ③ヒヤリハット報告 昨年対比プラス  ④福祉用具の導入	①月の更新頻度 2回以上  ②1名以上の 受け入れ実施	①有休消化率 75%以上  ②超過勤務時間の削減 前年比マイナス	①一人1回以上参加  ②実践取組みを 実践報告として報告
実績	①サービス全体 平均稼働率 85.25% 生活介護 103.9% 施設入所支援 99.2% 短期入所 78.0% 日中一時 59.9%  ②水光熱費 金額 使用量 ▶電気代…188% 101% ▶水道代… 86% 88% ▶ガス代… 112% 89% ▶灯油代… 97% 90% ▶ガソリン代…83% 80%	予算執行率 年間予算に対する 執行率 107%  昨年同期 103.7%  ・ランドリー改修 ・小型汚物処理機 ・コロナ対応消耗品 ・倒木撤去 ・寮廊下調光LED化	①事故件数 17件 昨年比121%  ②インシデント報告 138件 昨年比86%  ③ヒヤリハット報告 212件 昨年比115%  ④巡回相談を利用したの車椅子 の更新、身障手帳を取得しての 福祉用具の新規購入を進めてき た。	①HP更新 更新回数 22回 月平均更新 1.8回 アクセス総数 4054回 ※ページビュー数 にて集計  ②受入なし 受入体制は整えていたが、 コロナクラスター発生と重 なり受入できず。	①年間有休消化率 82.7% 一人当たりの 平均消化日数 13.7日  ②超過勤務時間 4月～3月 539時間 昨年 466.5時間 昨年比 115%	①施設内外研修 法人外研修 計29名 ※オンライン強行研修 府社協新任研修 サビ管更新研修他 法人内研修 計9名 ※医務勉強会含む  ②強度行動障害を有する ご利用者の強みを活か した支援の標準化を進め てきた。

## Concept 「新みわ翠光園の機能拡大により、更に地域の信頼を得る事業所になる」

	財務の視点	顧客の視点	業務プロセスの視点	学習と成長の視点			
重要指標	稼働率の向上【短期含む】	健康で満足度の高い生活の提供	働きやすい職場環境作り	専門知識の習得と向上			
目標値	▶ショートステイを含んだ稼働率 年間平均：99%	▶入院者数の10%減少 (前年比) ・誤嚥性肺炎 ・尿路感染 ・骨折 による入院	▶事故件数の減少 [前年比]  ▶ひやりはっと報告による 改善件数のアップ	▶有給消化率 年間平均：75%以上	▶介護負担についての アンケートによる 満足度調査実施	▶年間：3回以上 [前年比10%UP]	▶活用後のアンケートによる 満足度調査実施
実績	入院者の増加により、入所の稼働率は97, 4%であったが、空床を埋めるために短期入所の受け入れを増やし、空床を含む稼働率は98.5%となった。しかし目標に届かなかった。	誤嚥性肺炎6名 尿路感染7名 骨折3名 その他入院8名  入院者数は昨年より増加しており、更に長期化していることから稼働率を下げる原因になってしまった。	事故件数21件 インシデント357件 ヒヤリハット323件  勘違いや連係ミスなどの小さな事故として出したインシデントが多かったが、事故防止の気づきとして323件のひやりはっとも出てきており、意識は高くなってきていると感じる。	希望有給とコロナ感染による有給消化で、有休消化率は高くなった。反面休んだ職員をカバーするために残業時間が増加している状況が見られた	夜勤の介護負担についてアンケートを取り調査。その結果、ユニット間の違いがそれほど大きいわけではないことがわかり、不満意識は少なくなった。腰痛を訴える方については入浴支援の数を制限するなどして対応。	天井走行リフト実践研修についてはコロナ感染のため中断となった。しかしほぼ全員がリフトを使用できるようになっている。見守りシステムの使用については各ユニットで使いながらの実践研修を行い、使用方法への周知を図った。	虐待事案を受け人権緊急アンケートを実施。その後レベルアップ会議にて全体で意識改革について検討を行った。腰痛対策アンケートについては、腰痛であったスタッフも腰痛が軽減しているという結果になった。

# 8. 友就館 Report

## Concept 「友就館ブランドの浸透」

	財務の視点		顧客の視点		業務プロセスの視点	学習と成長の視点	
重要指標	年間就労収益額	年間稼働率	月平均支給額	年間農園収益額	地元企業ビール事業に参画	年間有給消化率	農業改良普及センター職員による実地指導、及び研修参加
目標値	▶年間 550万円以上	▶稼働率 114%以上	▶就労継続支援B型 24,200円 ▶生活介護 13,300円	▶農園収益 前年度比 110% (2,092,478円)  [2500円/坪収益]	▶大麦栽培 ・収穫・納品	▶有給消化率 90%以上	▶年間 6回以上
実績	◇年間収益 4,403,696円  ◇達成率 80.1%	◇年間稼働率 119%  ※本年度より 新規利用契約者1名	◇就労継続支援B型 月平均支給額 20,119円 総支給額 2,897,200円 達成率 83.1% ◇生活介護 月平均支給額 9,654円 総支給額 1,506,000円 達成率 72.6%	◇年間農園収益 1,323,817円 ◇達成率 63.3% [1583円/坪収益]  農地移転にともない冬野菜の収量が大幅に減少、収穫に谷間ができてしまった。	◇大麦栽培 6/13収穫・納品 収量:50kg  次期植え付けについては先方と打ち合わせを行った。来期植え付け量については今後も先方と相談しながら調整していく。	◇年間有休消化率 s 91.5%	◇実地指導:1回 ◇土壌分析:4回  適時メール等で植え付け計画に沿った相談、問い合わせを行った。農地移転に関連して、土壌分析を夏期、冬期で2度依頼し、新農地の土壌改良に関するアドバイスをいただいた。実地指導については、圃場整備が整ってから依頼を行っていく。

# 9. JUMP Report

## Concept 「地域ニーズに応える事業展開へ向けて」

	財務の視点		顧客の視点		業務プロセスの視点	学習と成長の視点
重要指標	安定的収入の確保	適正な支出管理	地域発信	ご利用者満足度の向上	ワークライフバランスの向上	スタッフ・チーム機能強化
目標値	▶年間稼働率 100%以上	▶予算執行率 95~100%	①年間ほっとはあと受注獲得 10件以上  ②HPアクセス前年比 30%UP  ③販売所売上前年比 30%UP	①ご利用者アンケート 満足度 2.5以上  ②ひやりはっと報告件数 前年比 30%UP	▶年間有給取得率 85%以上	①研修会・勉強会実施 3回以上/年  ②スタッフ会議実施 1回/月
実績	・年間稼働率 97.5%  ・契約ご利用者の継続的利用	・年間予算執行率 99.3%	①年間ほっとはあと受注件数 10件  年間エントリー数 21件  ②年間HPアクセス数 (前年比) 6%DOWN  年間HP更新回数 30回  ③年間常設販売所売上額 102%UP	①ご利用者アンケート 2月アンケート実施 満足度:2.3  ②年間ひやりはっと 報告件数(前年比) 110%UP  年間ひやりはっと 報告件数 80件	・年間有給取得率 83.5%	①年間勉強会実施回数 3回  ②年間スタッフ会議実施回数 10回 (5月・1月未実施)

## Concept 「新しい生活様式に合わせ工夫・改善を図り、充実感に繋げる」

	財務の視点		顧客の視点		業務プロセスの視点	学習と成長の視点	
重要指標	健康管理	稼働率の維持・向上	響奏安全・安心	YOU・ゆう 余暇支援の充実	業務効率化・分掌化	外部研修参加	事業所内研修
目標値	▶令和3年度 3名 ↓ ▶令和4年度 1名以下	▶新規契約者数 1名以上	▶令和3年度見直しの業務マニュアルの確立  ▶効率的な情報共有体制の確立	▶職員が介入する事で出来る余暇の提案 1回/月以上  (コロナ禍でできる内容)	①年間有給取得率 75%/年以上  ②時間外勤務の削減  ③雇用形態毎・世話人の業務内容更新・確立	①実務者研修 1名 ②強度行動障害支援者養成研修 2名 ③サービス管理責任者研修 1名	①虐待防止研修会 1回/年 ②身体拘束特別支援会議 2回/年 ③記録 その都度
実績	◇入院件数6件 ①6日間 低ナトリウム血症 ②4日間 肺炎・肺気胸 ③11日間 誤嚥性肺炎 ④6日間 コロナウイルス 低ナトリウム血症 ⑤2日間 右尺骨骨幹部骨折 ⑥5日間 胸椎圧迫骨折	◇短期入所新規契約者数 1名 ・契約後から数か月間、体調不良やコロナ感染症の影響により、利用開始が遅れたが、10月より利用開始。	◇業務マニュアルの更新 ・4月一年度替わりによる体制変更 ・9月一ご利用者の退所・入所に伴う見直し・引き継ぎ、連絡の精度向上の為、朝礼方法の変更 ・1月以降一ケアカルテ導入に向けた情報収集、運営方法の検討	◇月平均1回実施 ・コロナ対策の中での買い物外出に加え、社会的活動として選挙投票への参加、近隣への散歩兼ねた清掃活動、お盆やGW等、季節・時期に応じた食事・レクリエーション、おやつ作りを実施	①85%(年間) ②月平均9件の残業毎週の振返りを実施 ・コロナ感染症に対する直接支援、職員欠勤により件数が増加した。 ③ ・年度初めに雇用形態別の役割を確認、それに沿った部会・チーム運営を実施 ・世話人会議を中心とした業務内容の確認、更新	①初任者研修2名 ②基礎研修6名 ③1名 新規研修1名 更新研修1名	①1回実施(1月) ・委員会・部会を中心に内容確認し計画。感染症の影響により当初予定より時期が遅れたが1月に実施。 ②2回実施 ・9月・3月実施 ③ ・個別支援計画・モニタリングについて、サビ管・サビ提・管理職が確認し、入力方法・内容について担当職員と確認

# 11. すまい・る Report

## Concept 「利用者も支援者も新たに成長する一年」

	財務の視点	顧客の視点	顧客の視点	業務プロセスの視点	業務プロセスの視点	学習と成長の視点
重要指標	安定した収入確保 費用支出の適正化	グループホームで 楽しみある生活	細やかな課題の抽出	グループホーム の魅力発信	理解しあう支援者 チームの形成	対応力・支援力の向上
目標値	▶稼働率 100%  ▶各ホーム生活費支出 前年比(ー)	▶コロナ禍における 「楽しみ」「取り組み」の提供 年6回以上	▶ご利用者アンケートの作成  ▶ご利用者アンケート実施 年1回	▶ホームページ更新 月1回  ▶ホーム便りの発行 年3回 (6・9・1月)	▶世話人会議 月1回  ▶合同会議 隔月1回  ▶有給消化 85%	▶世話人勉強会 年4回  ▶連絡ノート、PADの有効活用 必要に応じ
実績	▶稼働率 98.6%  ▶各ホーム生活費(食費)支出 前年比：101%(+1%)	▶定期での楽しみ ・スーパーハナコ ・おやつ作り ・誕生会 12回(毎月実施)  ▶イベントとしての楽しみ ・花見 ・クリスマス会 など季節に応じ 年11回実施	▶ご利用者アンケートの作成 年内に作成  ▶ご利用者アンケートの実施 3月実施	▶ホームページ更新 計21回 (月約2回)  ▶ホーム便りの発行 6月、9月、3月 発行・発送	▶世話人会議 計11回 (1回は面談実施日となる)  ▶合同会議 計6回 (5・7・9・11・1・3月開催)  ▶有休消化 96%	*世話人含めた皆が障がい理 解と支援スキルの向上に努める  ▶世話人勉強会 計9回 (5・6・8・9・11・12・2・3月実施)  ▶連絡・情報共有 チャットワーク活用中

# 12. 相談支援センターてくてく Report

## Concept 「地域の“基幹”となるセンターへ」

	財務の視点		顧客の視点		業務プロセスの視点		学習と成長の視点		
重要指標	収益UPへの貢献	迅速なサービス 利用調整(法人 内事業所稼働 率UPの貢献)	相談しやすい 事業所作り	メリットの高い 事業所作り	業務効率化 の実施①	業務効率化 の実施②	スキルアップ①	スキルアップ②	地域支援力の向上 (基幹型への準備)
目標値	モニタリング件数UP (昨年対比: +10%) ※年間目標件数: 491件	エントリーリスト・待機 者情報を法人全体に 情報発信する (1回/1カ月) 法人内コーディネート 新規利用契約件数年 間 20件	相談件数UP (昨年対比: +5%) ※年間目標件数: 3210件	ホームページ の毎月更新  センター内での 積極的な情報発信	ミニミーティング の毎週実施	法人内勉強会 の実施 (1回/年)	ブラッシュアップ 会議の開催  (1回/2カ月)	法人内事業所と のケース会議の実 施  (1ケース /1人/年2回)	福知山市内において新 たな仕組み作りが完成 する  (1つ以上)
実績	年間件数:468件  在宅相談者のモニタ リング実績が上げら れず、年間目標件数 にわずかに及ばなかつ た。	エントリーリスト待機 者情報の毎月発信。  法人内コーディネート 新規利用契約件 数:36件/年間  内訳 すきっぷ:28 YOUゆう:1 みわ:2 シンフォニー2 むとべ(日中一時): 3	年間相談研修:3074 件  年間目標件数にわず かに及ばなかった。	HPの更新は年間3 回に留まった。  法人内勉強会と合 わせて、計画相談 の情報発信・てくて くの紹介動画をチャ ットワーク上で配信 をすることができた。	毎週週初めに実 施し、ケースの進 捗確認と1週間の 予定確認を行っ た。	モニタリングをテー マにして勉強会を 実施。【3月15日 実施】	年間3回の実施。	年間合計2回、法 人内事業所とのケ ース会議(確認 会)を実施した。	基幹相談支援センター の入札の結果、受託事 業者に決定。2月後半か ら開設に向けて実務者 協議を行い、4月1日に 開設を迎えた。

# 13. 児童発達支援センターすきっぷ Report

## Concept 「ますます必要な存在へ」

	財務の視点	顧客の視点		業務プロセスの視点	学習と成長の視点
重要指標	安定した収入の確保	親支援プログラムの実施 ①	親支援プログラムの実施②	有給取得率の向上	スキルアップ
目標値	①児発：90%以上 ②放デイ：95%以上 ③保訪：月20件以上	①療育セミナー 再生回数 100回以上  ②親子療育 ・保護者会の参加率 40%以上	▶保護者面談の実施 年間1人2回以上	▶有給消化率 75%以上	▶研修会等への参加 年間1人1回以上
実績	①児発：月平均79.1% ②放デイ：月平均83.8% コロナ感染による閉所、感染症(コロナ・ヒトメタニューモ・インフルエンザ等)による継続した欠席、園行事等による欠席が目立った。  ③訪問：月平均6.8件 年度始めの契約者減少が続いたこと、長期休暇や授業が変則的な時期など、訪問できない期間が多かった。	①療育セミナー 再生回数184回 家庭の都合に合わせて短時間ずつ視聴される方や、関係機関では職員研修会等に利用していただくなど、多数の方に視聴いただきました。  ②参加率59%(54名) 親子療育：実施アンケートも好評で、複数回希望される方もあった。 保護者会：年3回のうち、コロナ感染拡大もあり2回の実施となった。新規ご利用の保護者が積極的に参加された。	▶契約者87名中 62名(のべ106回)実施済  サービス計画の確認やニーズに応じた面談、内容に応じて専門職が対応することで、子育ての不安解消に繋げることができた。	▶消化率 96.6%  業務見直しの効果もあり、毎月数名は取得できる状況になった。コロナ感染・閉所による有給取得が大きかった。	▶11名中9名(のべ16回)  少しずつ研修等も実施され、積極的に参加することができた。



# 14. シンフォニー Report

## Concept 「地域生活に求められる事業所に向けて」

	財務の視点	顧客の視点	業務プロセスの視点	学習と成長の視点
重要指標	稼働率OP	ご利用者が必要とする支援	個別支援計画の見直し	資格取得専門性の向上
目標値	①相談支援センターとの連携[毎月] ②新規契約件数 ・既存契約者利用拡大件数 [3件以上/年]	①ご利用者一人ひとりの身体介護・家事援助の必要な状況把握・確認 [4月] ②ご利用者一人ひとりの必要な支援マニュアルの作成・整理 [5月・6月] ③ご利用者一人ひとりの支援マニュアルを職員間で共有、試験的な実施 [7月・8月・9月] ④ご利用者の現状確認により、必要に応じた支援内容の見直し [7月・10月・1月には個別支援計画へ反映]		①実務者研修 1名 ②強度行動障害支援者養成研修 2名 ③外部専門研修 5件
実績	①毎月実施 ②4件 ・新規契約2件 (移動支援1件・家事援助1件) ・既存契約者利用拡大2件 (家事援助・身体介護)	個別支援計画の作成・共有を実施。 6月・9月・12月・3月のモニタリングだけでなく、その都度の支援方法変更について確認 ①実施済み ②実施済み ③実施済み ④実施		①初任者研修2名 ②基礎研修6名(年間) ③8件 ・強度行動障害支援者研修6名 ・サビ管研修1名 ・社会福祉士実習指導者研修1名

# 15. ほほえみの里 Report

## Concept 「地域のみなさんの笑顔と安心づくりの一翼を担う施設」

	財務の視点	顧客の視点		業務プロセスの視点	学習と成長の視点	
重要指標	安定した収入の確保	選ばれるデイサービス	選ばれるケアマネジャー	認知症の進行予防	施設全体のスキルアップ	緊急時の事業継続 (BCPを実践し DCPIに繋げる)
目標値	▶稼働率 94%以上/月 (32.5名以上/日)	▶新規利用者 (2名以上/月) ▶登録人数 (95名以上/月)	▶総担当件数 77名/月	▶LIFEの評価による 認知症(Ⅲa)の把握	▶勉強会等の開催	▶業務継続計画の策定
実績	▶平均稼働率【月間】 4月:87.8% 5月:90.4% 6月:85.1% 7月:82.4% 8月:79.9% 9月:83.4% 10月:89.6% 11月:85.7% 12月:59.3% 1月:63.4% 2月:72.7% 3月:77.6%  ▶平均稼働率【年間】 <u>79.7%</u>	▶新規利用者 4月:3名 5月:1名 6月:1名 7月:1名 8月:2名 9月:2名 10月:1名 11月:1名 12月:1名 1月:1名 2月:3名 3月:3名 [4月~3月] <u>合計20名</u>  ▶登録者数 4月:89名 5月:90名 6月:90名 7月:89名 8月:90名 9月:87名 10月:87名 11月:86名 12月:85名 1月:85名 2月:78名 3月:83名  ▶平均登録者数【月間】 <u>86.5名</u>	[居宅] ケアマネ35名/人 常勤換算:2.2名 (予防給付含む)  ▶担当件数【月平均】 72件  ▶稼働率【年間平均】 93%	▶通所介護認利用者知度 [Ⅲa以上]  4月:24.6% 5月:24.2% 6月:24.2% 7月:25.0% 8月:23.8% 9月:22.8% 10月:23.9% 11月:23.6% 12月:21.8% 1月:23.3% 2月:25.0% 3月:23.1%  ※科学的介護情報システム LIFE を使用して評価	▶勉強会:コロナ禍のため中止  ▶研修会実績 [施設内研修] ■新任研修/虐待防止研修 ■精神科医との連携研修  [外部研修] ■ケアプラン点検研修 ■海内整理総括表研修 ■生活困窮/障害高齢者支援研修 ■多職種連携交流会 ■新型コロナ在宅療養研修 ■BCP策定研修 ■屋内での歩行動線研修  [資格] ■認知症介護基礎研修修了 :2名 ■認知症介護実践者研修修了 :1名 ■介護福祉士 合格:1名 ■主任介護支援専門員更新研修 修了:1名	▶2022.11.22 法人BCP訓練実施  ▶単独事業所のBCP訓練 DCP訓練は未実施  ▶[法人BCP]に則った、単独 事業所BCPを作成

## Concept 「馴染みの地域生活を支援する」

	財務の視点		顧客の視点		業務プロセスの視点		学習と成長の視点
重要指標	安定した施設経営・運営		安心した生活介護提供		働きやすい業務環境		専門性の高い人材育成
目標値	①通年入居稼働率 95%  ②日常生活自立度 (認知症)Ⅲ以上 65%  ③入所時の 要介護区分4・5の割合 70%以上	①ショートステイ稼働率 90%  ②新規利用者獲得 10件/年間以上	①インシデント件数 前年度比減  ②ヒヤリハット件数 前年度比増	▶bcp対策の強化に向けた取 り組み実施  5件以上/年	▶年間有休消化率 75%  ▶超過勤務 ・時間の減少 ・前年度比減	▶法人内研修対象者 80%以上  ▶施設内勉強会 年2回以上	
実績	①通年入居稼働率 96.4% 前年度比より3.3%増  ②③重度新規入居受け入れ 加算算定条件については、5名受け入れ実行 中、4名が要介護4以上の 要介護状況で、80% 加算算定クリアーで目標 達成。	①通年ショートステイ 稼働率 83.1% 前年度比0.2%増 目標値に届かなかった。  ②今年度新規受け入れ 16件の受け入れ実 行し目標達成。	①インシデント件数前 年度件数48件に対 し今年度32件と減。  ②ヒヤリハット件数前 年度482件に対し、 今年度628件と増	▶今年度の災害対策に向け 災害時備品準備を進め施 設全体でBCPの重要性を 共有を計6件実施する。	▶今年度についても、 コロナ禍ウイルス感染 の影響で有休消化が、 511日発生。  有給消化率 80%	▶今年度についても、 コロナウイルス感染関連 の欠員があり ホロー 勤務対応の為、 495時間の超勤 前年度比よりも 171時間の増	▶法人内研修は、 オンライン動画研修の受 講で職員の100%が参 加し目標達成。 ▶法人内PTリハビリ指導 勉強会及び虐待研修、 各委員の施設内研修実 施を計5回以上実施。